

## 現在、福島第一原子力発電所事故を教訓に 新しい基準が定められています。

2013年7月、福島第一原子力発電所事故を教訓として、新たな基準が施行されました。新規制基準では地震・津波への対策に加え、火山・竜巻・森林火災など自然災害も考慮されています。

関西電力はこれらの基準に適合させることはもちろん、さらに、自主的な取組みも進めています。

### ●新たな基準のイメージ

2013.7以前

**重大事故緩和策等  
(事業者の自主的な取組み)**

新設

新規制基準(2013.7施行)

- 重大事故が発生することを前提とした対策
- 大型航空機の衝突・その他テロ時への対策

**重大事故防止策  
(規制で求められる取組み)**

強化

- 大規模自然災害への対策強化
- 電源・冷却装置等の強化

新規制基準では、独立した多層の安全対策で対応できるよう  
深層防護の考え方方が徹底され、想定を超える災害にも備えています。

福島第一原子力発電所事故を教訓として規制基準が見直され、事故を防止するための対策が強化されるとともに、重大事故の影響を緩和するための対策が新たに設けられました。

### ●深層防護の基本的な考え方

#### 放射性物質の影響から人と環境を守る

#### 過酷事故の進展を防止

#### 異常が拡大しても過酷事故に至らせない

#### 異常の拡大を防止

#### 異常の発生を防止

#### 第1層

自然現象を考慮した余裕のある設計

A/B/C/D

#### 第2層

監視・制御系統・設備を設置

E

#### 第1層

#### 第3層

事故に応じた設備を整備

F/G

#### 第2層

#### 第1層

#### 第4層

設計上の想定を超える事故への対策および対応

H/I/J/K/L/M

#### 第3層

#### 第2層

#### 第1層

#### 第5層

住民避難等による放射線防護対策

P21参照  
(原子力防災訓練)

#### 第4層

#### 第3層

#### 第2層

#### 第1層

#### 重大事故防止策

#### 重大事故緩和策等

#### 事態の進展

出典：原子力規制委員会委員長田中俊一「原子力規制委員会の取り組み～東京電力 福島第一原子力発電所事故から5年を踏まえて～」(2016.3)などをもとに作成

押さえておきたいワードはこれ!

#### 新規制基準

もっと知りたい方はこちらから  
リンク先：原子力規制委員会HP



#### 深層防護

「人間はミスをする」「機械は壊れる」という考え方を前提に、故障や誤作動、操作ミスなどに備えて何重にも安全対策がなされていること。